

# 新年度を迎えて

## 法人本部 事務局長 中野渡 幸彦

いつも法人の活動に温かいご理解とご協力をいただき、本当にありがとうございます。新年度を迎え、利用者の皆さまが毎日を安心して過ごせるよう、職員一同で力を合わせて取り組んでまいります。物価の上昇や人手不足など、福祉の現場を取り巻く状況は変化が続いていますが、職員が働きやすい環境を整え、より丁寧な支援につなげていくことを大切にしています。また、利用者様の高齢化や重度化に合わせた支援の見直し、地域の皆さまとのつながりづくりにも力を入れていきます。今年度も「財務」「利用者・地域」「業務改善」「人材育成」の4つの視点を大切にしながら、組織一丸となって安心できる支援体制づくりに努めてまいります。どうぞ引き続き、温かいご支援をお願いいたします。

## 札幌報恩学園 園長 竹村 義文

このお便りが届くころ、桜前線という言葉がニュースでも聞かれるようになってきているのかなと思います。新たに挑戦する、歩みだす、心機一転、自分はこの時季が好きです。

さて、昨今の物価高や急速な人口減少をはじめとした日本が直面している課題の多い中で、福祉業界も今後さらに先々を見越した施設運営が求められております。入所支援施設の今後の在り方、地域生活支援の充実など、各施策を先読みしながらご本人の望む暮らしに合わせた支援を提供していくこととなります。また、意思意向確認をする機会を意図的に用意する場面も出てきます。人は何か1つのある無しで辛くもなり、幸せにもなります。いろいろな変化を見逃さない、そんな一年にしたいと考えております。

## グリーンホーム厚別・そよ風 管理者 川口 智恵子

2025年度も保護者の皆さまのご協力、ありがとうございました。2026年度もお一人おひとりの意思を尊重し、ご本人にとって最もふさわしい暮らし・過ごし方を一緒に考え、支えていく支援を目指していきます。そのためにもご本人が自らの思いを表現し選択できるように支援していくことが必要です。不十分な点もあるかと思いますが続けていくことで近づいていけると信じています。制度改革や改定等目まぐるしく変わっていきませんが、これからは支援の質が求められます。利用者の皆さまが安心して生活していただけるよう、また通所していただけるよう職員一同協力し支援にあたっていきます。どうぞよろしく願いいたします。

## くるみ寮・のぞみ寮 管理者 富田 弘樹

人は一人ひとりそれぞれ違います。だから、それぞれに応じた暮らしを支えていくことが私たちの役割です。今まで私たちは、「どこで誰とどのように暮らしていくのか」ということについて、真剣に考えて寄り添ってきたらうか！

「人が地域で普通に暮らす」という当たり前の事が、特に障害を抱えると、相当な覚悟と支援が必要となり、なかなか簡単にはいかない事も長い間経験してきました。

今、地域は高齢社会へと変化し多くの支援を必要としています。「誰もが安心して暮らせるまちづくり」と言われて久しいですが、果たして本当に安全で安心できる地域になったのでしょうか。

今後、私たちはしっかりと地域課題に向き合い、地域連携の強化と質の高い支援が今まで以上に求められます。しかし、なかなか容易に超えられない現実を目の当りにし、もどかしさを感じずにはられないこの頃です。